

りに於いては、國民の利益の爲めに公共又は慈善の爲めに、十分なる御下賜金等もある思召であつたと云ふことであります。然る所に高等教育機關の擴張を計つて、政府は其計畫を樹てると云ふことを聞召されて、御下賜金の御沙汰を受けたのであります。御沙汰には無論斯様にあります。高等教育機關擴張の計畫あることを聞召され、一千萬圓御下賜相成ると云ふことであります。當然高等教育機關の擴張の爲めに御下賜相成つたのであります。無論其他の事にも時と場合に依つて、斯う云ふ難有い御沙汰もあらう事と思ひます。一部の人は色色な考へをした者もあり、誤り傳へたこともありましたが知りませぬが、左様な事では初めよりなかつたと云ふことを御承知を願ひます。

○鈴木梅四郎君　只今總理大臣の明確なる御答へを得まして安心致しました實は此問題に就きましては國民教育の狀態が、如何にも憐れな狀態であることが上聞に達した爲めに、其方に御下賜にならうと云ふ御意思のあつた所、高等教育機關の事に御奏請になつて、御裁可を得られたと云ふ風説が確にあつたのです。只今の御明答を得て安心致しました。次に社會政策の問題に就て、是は

内務大臣に御尋ねするのが至當であらうと思ひますが、何方から御答へ下さつても宜しうございます。社會政策の根本施設と云ふものが第一でなくてはならぬのであります。即ち貧を防ぐと云ふ點が社會政策の第一、第二は貧乏人を救ふと云ふことの、此二つの點が最も重要な點と思ふのであります。處で社會政策の問題は、我が帝國の政治圏内に於ては、甚だ冷淡に取扱はれて居たのでございますが、昨年のも米騒動以來、急轉直下して、今日では社會政策の急を論ずる同論者が遽に殖えて來ましたことは、私共の非常に喜んで居る所でございませぬ。併しながら、此度の豫算を拜見致しました所では、此社會政策の問題に就ては、何等御計畫が見えない。是は來年度の豫算には、何か社會政策の施設に就て御提案になる御準備中であるか否か。之を御尋ね致して置きます。

○國務大臣(原敬君)　只今のは社會政策に就て、次に何か提案する考へがあるかと云ふ御話でございました。此處で明かには申兼ねます。併し社會問題に就ては、色々攻究を致さなければなるまいと考へて居りますから、社會政策と云ふ一本立の單純なものは如何か知りませぬが、色々な法案其他から此所に及ぼ

さるを得ぬこともあらうと思ひますから、場合に依りましては、後年に提出するものもあるかも知れませぬが、如何なる事、どう云ふ事を提出するかと云ふことを豫め爰に申し上げ兼ねます。必要を生ずれば提出するものなりと御諒解を願ひたいのであります。それから先刻の御下賜金の事に就て、御諒解を得て満足致しますが、併し御聞及びは實に意外なる事であつて、一般義務教育、其他一般の教育に賜はるべきものを、内閣が奏請して、高等教育機関だけに致したと云ふ風説を御聞及びになつたと云ふことであります。是は驚入つた風説であります。さう云ふ考へをした人もありませうので、さう云ふ間違ひを起したかも知りませぬが、決して政府より斯くの如き事を奏請して、御下賜金を仰いだのではないのであります。全く難有き思召より賜はつたのであります。此事は大切な事でもありますから、繰返して言明致して置きます。

六 防貧の根本策は國民健康の國家的保障にあり

!!附、衛生行政上の一大缺陷!!

不肖は防貧の第一策が國民の健康を國家が保障するの制度にありとするの見解より、現在行はるゝ國民の衛生、保健に關する行政上の重大なる缺陷を擧げて當局の注意を促した。之に對する床次内務大臣の答辯は例によつて言々句々眞摯敦厚の氣に満ちたものであつたが、内相が不肖の指摘した衛生行政上の缺陷に對して何等言及される所のなかつたのは、不肖の甚だ遺憾とする所であつた。

○鈴木梅四郎君 更に社會政策の事に就いて二三具體的の御尋ねを致したい抑も社會政策に於きまして一番重きを置きますものは、先刻申しました通りに貧を防ぎ、貧を救ふと云ふ問題である。處で貧を防ぐと云ふ問題は、先づ貧乏人を多くしないと云ふので、是は先決問題である、防貧の主なる事業は何であるかと申しますれば、疾病、傷害に對する醫藥の施設と云ふ事が第一になるのであります。段々調べて見ました所で日本には信用すべき程の統計もございませぬが、獨逸が先年其公設救貧所について調査致した所に依りますと、救貧所に收容致しました貧民の中、傷害に因るものが百分の三十一あるのです。それから疾病に因るものが五十幾つある。して見ますと云ふと、此人間の貧困に陥る原因は、傷害を受け、疾病に罹つた時に、適當に治療の途を得なかつたと

云ふ事が貧乏の原因となつて居るのであります。吾々知人の間に於て調べて見ましても、貧乏をしていけなくなつた家庭を見ますと云ふと、矢張り一家の病氣負傷と云ふやうなものが原因になつて居るのは、明に見られるのであります。多數の貧困者に就て集めました此統計に依つて見ましても、貧乏人の約九割までは、疾病傷害に因つて貧乏に陥つたと云ふやうになつて居る。して見ますると云ふと、國民の衛生問題、是は却々に社會政策と致しては大事な問題である。然るに今日の日本の現状を見ますると云ふと、此八割五分の大多數の貧民階級が、一朝病に罹つた時に、果して相當な醫藥に接することが出来るかと云へば是は出来ないものである。先づ第一はどうかと申しますと、醫師の分配が非常に不平均である。東京大阪と云ふやうな大都會には醫師が密集して、殆ど人口五百人に對して一人位の割合になつて居るが、遠き田舎へ参りますると何千人に對して一人と云ふ計算になつて居りまして、醫師の分配と云ふものが寔に不平均を極めて居る。其上に醫藥の價と云ふものが、どうであるかと申しますると、之は語弊があるか知りませぬが、私が常に唱へて居ります、醫師「ト

ラスト」とも申します、醫師會の規定に依つて定められたる診察料及藥價と云ふものを以て、如何にして此大多數の貧民が、負傷若くは病の時に當つて適當なる治療をすることが出来るか、是は多くの言を費さずして明かなる事實でございませぬが、即ち日本の今日の衛生状態を以て見ますれば、制度其ものが、益々貧乏を造る種を造つて居ると云ふ結論になるのである。で此社會政策の第一の問題に就きましては、政府當局者に何か根本的に救濟の案を御立てになる必要はありはせぬかと思ふのであります。當局者の御考へは如何でありますか一應御尋ね致します。

○國務大臣(床次竹二郎君) 御答へ致します。前から段々社會政策の御尋ねでありますが、是れは一寸一言にすれば、極く解り切つた事情のやうでありますけれども、實際に於ては複雑な問題であります。決して一言で、若くは一つの事項を擧げて、それで足りると云ふもので無いと云ふことは御承知の通りであります。そこで只今まで救貧の事に就きましては、先づ制度の上では舊い規則があります。是は極く舊い時分に出来たのでありますから、鰥寡孤獨には米

何合をやるかと云ふやうな風の舊い規則であります。併しながら日本の状況は、歐羅巴の貧民の状態に較べて見ますと云ふと、幸にして未だ甚しきに至らぬのであります。殊に實際に於て地方に災害でもあるとか、何とか云ふやうな時分に、此救恤規則に依つて救助を致さうとしても、中には左様なものを頂戴することは、是れまでの家や若しくは世間の體裁上甚だ不名譽な事と心得て、それまで辭退すると云ふ位の今日の有様であります。私はそれで現在救貧制度が整うて居ると云ふことを申すのではありませぬが、未だ斯くの如き風であると云ふことは、是は寧ろ私は喜ぶべき状況であると考へて居ります。併し世の中は左様な事許りで許す譯でもありませぬから、事實今日では或は孤兒院なり、養老院なり、色々の救貧に關する施設が出来て参りました。尤も此施設は多く私設のものであります。中に公立のものが混つて居りますが、私設の力に依つて行はれて居るのであります。で其等のものに對しては明治四十一年頃であつたかと思ひます。どうしても今後の世の中は、其等の點に就て、注意しなければならず、それに多少其私設の事業を見てやると云ふ事が必要であらうと云ふ

ので、即ち御協賛を得て、鰥寡救濟事業獎勵補助費と申しましたか、金を取つて幾分づゝ獎勵をして來た、是等の事業も宜い加減起つて居ります。今日は御質問があらうとは思はなかつたのですから、其統計を持つて参りませぬが、其等の統計は追て表を以て御覽に入れることに致します。甚だ不十分ではありますが段々發達して参つて居る。それから疾病に關しては、主なるものは御承知の濟生會が疾病救療の事に當つて居ります。それ以外にも小さな私設のものがありますが、今日では此恩典に浴する貧者も其數が少なくありません。それも統計を以て御覽に入れる事に致します。それからそれ以外に申しますれば、此社會政策と世に申すものは甚だ複雑になつて居ると思ひますが、多くの事柄は私共の見るところでは、今後専ら公共團體の施設に俟つべきものだと思つて居ります。例へば細民の住宅でありますとか、若しくは先程御話のありました小賣の市場でありますとか近來大分出來て参りました。是も今統計は覺えませぬが、出來て参つたので先般此市場の施設に就ての標準のやうなものを定めて地方に通牒を致したやうな次第であります。細民の住宅なども左様な事であり

ますが、其外色々な施設は、専ら公共團體に働いて貰はなければならぬと思ひますが、それ以上今の所で、國として直接手を出さなければならぬ今日の状態では、未だないと考へて居ります。先づ主に公共團體をして働かすが宜からうと思ふ。それから衛生の御話がありました。是は最も大切な事でありまして、此衛生の事も主として任ずるものは地方團體であります。例へば上下水道の如き若しくは地區を劃して此好い住宅でも拵へて貧者の便を計ると云ふやうな事をしても、皆な是は地方の働きに待たなければならぬ。之を督勵する必要があると考へて居る。全般に亘つて衛生上から見ましては、例へば『トラホーム』の如きであるとか、若しくは肺病患者であるとか、若しくは精神病患者であるとか云ふ風の問題に就ては、是は今期の議會に於て、法案を制定して御協賛を得る積りであります。精神病、トラホーム病並に肺結核等に就ては、追て提出を致す考へであります。其外現在行はれて居るのは、此痘苗を製して成るべく容易に分配をすると云ふやうな事は、是は矢張り社會政策の一でありませう。或は労働保險の如きも、段々去年の議會にも議論がありました。斯のこと

制定を致す時機があるだらうと思ひます。今の處では吾々の方では、直ちに法案を出すまでに調べは出来上つて居りませぬが、併し何れ其時機はありませう。今行はれて居る簡易保險の如きも、是亦社會政策と見て宜いのであります。是は餘程複雑な問題でありますから、一言にして此處で私が申上げることが甚だ困難であります。大體は左様に考へて居りますから、一つ一つの問題に就て、此上は御質問を戴けば、一々それに御答へを致すことに致したうございます。

○鈴木梅四郎君　内務大臣が社會政策問題に對して比較的御熱心でありますことは、豫て承知致して居ります。只今の御答辯で、略々其事も解つて居ります。仍て尙ほ此上に私の私案を出して色々御尋ねすることは止しますが、先刻總理大臣に希望を述べて置きました通りに、今日以後の社會一般の人心と云ふものは、まるで従前とは一變して居るのでございますから、過去の慣習は一切打棄つて新に御成案を立てて下さると云ふ精神で御努力を願ひたいと思ひます。(以下省略)

鈴木梅四郎先生著作目録

- ▼平和的世界統一政策……………大正元年九月發行
- ▼皇室社會新政……………大正七年二月發行
- ▼福澤先生の手紙……………大正七年六月發行
- ▼日本に於ける社會政策の基礎……………大正八年二月發行
- ▼日本改造の意義及其綱領……………大正八年九月發行

附 録 平民宰相の試金石 (終)

大正八年九月廿五日印刷
 大正八年九月三十日發行

日本改造の意義及其綱領

定價 金貳圓參拾錢

著作
 有

著 者 鈴木梅四郎
 東京市麴町區四番町三番地

發行者 有我道太郎
 東京府荏原郡大井町四千五百〇三番地

印刷所 合資會社東京國文社
 東京市京橋區宗十郎町十五番地

發行所

東京市京橋區出雲町貳番地
 振替口座東京三四二五七番

實生活社出版部

電話 銀座 一二九八番

▼吞天 鈴木梅四郎先生著 ▼訂正大増補第四版出來!!

賜天覽 皇室社會新政

三上知治裝幀
總クローリス
金文字函入
菊判四百三十頁

特製定價一圓五十錢 平民版(並製)定價一圓 郵稅十二錢(臺灣三十錢支) 那朝鮮四十錢

- ▼痛烈なる金權政治の彈劾
- ▼深刻なる現存政黨の批評
- ▼熱誠なる資本家への警告
- ▼大膽なる社會政策の提唱
- ▼雄健なる平民主義の理想

福田博士評
神戸博士評
建部博士評
山室軍平評
副島博士評

發行所 東京市京橋區出雲町二番地 振替口座東京三四二五七番

實生活社出版部 ▼賣捌 東京堂、北隆館、至誠堂、東海堂、大阪盛文館

最近出版物中の白眉と推獎するに躊躇せず知友等には時に繕讀を勸説致し居り希くは平民版を作り一般に普及せしめよ。日本の實狀より割出され著者實驗の結果に基きたるものとて小生共も裨益さるゝ所大也今後共之を提げて天下に呼號せよ。精密なる計數に基き中樞的主義に於ける社會政策を樹つ是を歴史に溯り之を時勢に徴し國體の精華と民性の精美を含む。私は去年歐米諸國を旅行して來た感想の上にも立ち殊に此書を有難く拜見したものだといふことを告白するに躊躇しない。鈴木氏は世に先んじて經世の要點を説破し世間具眼の士に重要な問題を出せり其志や忠にして其勞や大也必讀せよ。

吞天 鈴木梅四郎先生著 定價金壹圓

再版 日本に於ける社會政策の基礎

附 庶民階級の利福のため!!

民主民本の論議愈盛にして米價は容易に下落せず平民内閣の基礎愈固くして平民の生活難益加はるパンを求むる多數の國民に石を與ふる者は現代の學者なり政治家なり政黨也著者茲に見る所あり世界の趨勢に順應すべき社會改造の先決問題として庶民の日常生活に安定を與ふべき第一策を提唱す農村と云はず都會と云はず苟も臺所の問題に心を勞する者は必ず本書を一讀せよ其大多數國民の味方として權力者に突撃するや魔王の如く各階級勝手元の相談相手として衣服薪炭食物家賃の小問題を論ずるや慈父母の如し篇中得易からざる多數の統計を引いて立論最も精密而も文章流麗多趣味にして詩を誦する如き眞に經國の大文字

發行所

東京市京橋區出雲町二番地 振替口座東京三四二五七番

實生活社出版部

10P 17

犬養先生題言 本山先生序 鈴木梅四郎先生著

實訓 修養 福澤先生の手紙

菊版三七〇頁
總クローヌ函入
定價貳圓
郵税 四十八錢
臺鮮 四十八錢

三 版

著者 福澤先生の高弟也 普く天下に先師の手簡を蒐集すること二十年 不斷の苦
は 福澤先生の高弟也 普く天下に先師の手簡を蒐集すること二十年 不斷の苦
むる所の書簡二百五十餘通 其中寫真石版にて充實 木堂犬養先生「本書に題して言ふ
文を抽出せるもの數通 其の内容豐富にして 充實 木堂犬養先生「本書に題して言ふ
師の簡札は其性情兩面の發露 言々句々 都て願殺眞摯の誠より出で、之を讀む毎に先生の面
目躍々として紙上に浮び出る 想ひがわ 傳燈錄 千代不朽の名著たるべし。
る實に吾徒には無上の賜で 獨立自傳の 傳燈錄 千代不朽の名著たるべし。

目次	車載	才	細心	勤物	謹嚴	大度	自親切	愛國	同情	慈愛	義俠	學末	新進	總計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一
十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三
十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四
十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五
十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七
十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八
十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九
二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十
二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一
二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二
二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三
二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四
二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五
二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六
二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七
二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八
二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九
三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十
三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一
三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二	三十二
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四	三十四
三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五	三十五
三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六	三十六
三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七	三十七
三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八
三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九
四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十	四十
四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一	四十一
四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二	四十二
四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三	四十三
四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四	四十四
四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五	四十五
四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六	四十六
四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七	四十七
四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八
四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九
五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十

發賣所
東京京橋區出雲町二
實生活社
振替東京三四二五七番

終